

発言テーマ「組織拡大・強化、維新型政治打倒のたたかい」

大阪労連の嘉満です。議案に対して基本的に支持する立場から、「議案書 P14～の組織拡大・強化と大阪での維新型政治打倒のたたかい」の 2 点について報告し、討論に参加します。

大阪労連は、この間組織の純増を実現するために、年間拡大目標を 6 月 30 日組織調査数に対して 10%以上の加入、「秋の拡大集中期間」で 1,000 人拡大、「春の拡大集中期間」で 3,500 人拡大とし、年間を通じた組織拡大運動にとりくんできました。人材不足や多忙といった厳しい職場環境の中でも、組合員の粘り強い努力が続けられていますが、大阪も減少傾向には歯止めがかかっていません。

今年の「春の月間」は、コロナの影響で例年の新規採用者へのとりくみが出来ず、昨年の「月間」拡大数を下回りました。そんな中でも、医労連の支部には、コロナ感染対策の病院の対応に不満を持った同じ病棟の看護師が複数組合に加入しました。また、学校職場では休校の期間に例年より新規採用者と話をすることができたことや、パワハラなどの相談に対応する中で組合への信頼が寄せられ加入しています。少数組合であっても、日常的な活動をコツコツとりくみ、労働組合が見えているからこそ組織拡大につながっています。コロナの影響で、これまでのような歓迎会や集会が困難となる中で、これまでの教訓を活かし、職場での粘り強い働きかけ、役員だけでなく、組合員ひとりひとりに依拠した拡大の追求が必要です。

また、若手への役員交代がすすんでいる職場もある一方、日常活動のすすめ方がわからず、要求作りの未経験などから、やるべきことがやりきれない状況も生まれています。統一闘争への結集や集会等の参加、署名集約等が弱まっています。純増を確実なものにしていくためにも、学習・教育を充実させ、組合員参加型の日常的な組織拡大運動を組織の隅々に広げる努力を尽くすこと、切実な要求を基礎にした要求実現と日常活動・職場活動の活性化、組織拡大強化の相乗効果を作り出していくことが必要です。さらに、全労連運動の柱である単産と地域の活動、縦と横の活動の一方である、地域労連運動の継承が大きな課題となっています。それぞれの地域労連内で「自分たちの地域労連をどうしていくか」「どうすれば引き継いでいけるか」活動のあり方も含め議論を深めることが重要となっています。そして、地域労連の強化・発展のためにも単産の力が重要です。コロナ禍で、労働環境の悪化が予想され中、地域労連の役割もますます大きくなっています。全国の経験にも学びながら、地域労連の発展をめざしていきたいと思えます。

二つ目に、大阪での維新型強権政治とのたたかいです。

この 12 年、維新の会の大阪府・大阪市政が削り続けた保健所などの公衆衛生と医療提供体制の脆弱化が今回のコロナ危機対応を困難にしていることは明らかです。感染症病床数と保健師数がどちらも全国 2 ワーストという状況で危機対応を脆弱化しました。

また、休業や外出自粛を要請・解除する際の大阪府独自の基準「大阪モデル」についても、経済を重視して危険信号を出しにくくするため点灯基準をさらに引き上げ、大阪府医師会をはじめ専門家から「現場の実態から乖離している」など厳しい批判を受けています。

このような中、維新の会は、この秋に「大阪都構想」の是非を問う住民投票を再び実施しようとしています。「大阪都構想」については、2015 年の住民投票で否決された案の「大阪市を五つに分割」を四つするだけのものです。今求められているのは、これまで壊されてきた命と健康を守る医療や、暮らし支える社会保障、中小企業の再建にこそ力を注ぐべきです。大阪市廃止・分割に膨大な経費を使っているときではなく、住民に分

断を持ち込む住民投票を阻止しなければなりません。ここでも大阪維新の会の強権的手法による政治の私物化や、反対意見の徹底した排除という、民意に基づかない姿勢は明白であり、反維新のたたかひの重要性がますます増しています。

世論調査（読売）では、吉村知事の支持 77%と見出しが打たれましたが、それとは裏腹に大阪市民の中での「大阪都構想」への賛否は拮抗しています。マスコミで「つくられた吉村人気」に惑わされず、「コロナ対策に全力を挙げるときに、大阪都構想・住民投票やカジノ誘致に税金使うな」を柱にたたかひます。大阪維新の会の「1丁目1番地」である大阪都構想を阻止することは、第1に維新の会の存在意義を削ぐことです。そして、改憲を煽る維新の会を打倒し、安倍改憲阻止へとつなげていくことを目的としてたたかひを強化します。

コロナ禍の中で、安倍政権・維新の会の経済中心の政治が失敗であり、長続きさせてはならないことが明らかとなりました。コロナ後の見据え、労働者・国民のための政治に転嫁させるたたかひを全国の仲間とたたかひことを決意して、発言とします。